

RECEIVED  
AUG 12 2004  
R. S. YAMAMOTO

PCT

国際調査報告

特許協力条約

Due: 10/17/09

(法第8条、法施行規則第40、41条)  
[PCT18条、PCT規則43、44]

出願人又は代理人 の書類記号 04R00247PC	今後の手続きについては、様式PCT/ISA/220 及び下記5を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/006923	国際出願日 (日.月.年) 14. 05. 2004	優先日 (日.月.年) 15. 05. 2003
出願人 (氏名又は名称) シャープ株式会社		

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条 (PCT18条) の規定に従い出願人に送付する。  
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 4 ページである。

この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

1. 国際調査報告の基礎

a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。  
 この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。

b.  この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでいる (第I欄参照)。

2.  請求の範囲の一部の調査ができない (第II欄参照)。

3.  発明の単一性が欠如している (第III欄参照)。

4. 発明の名称は  出願人が提出したものと承認する。

次に示すように国際調査機関が作成した。

5. 要約は

出願人が提出したものと承認する。

第IV欄に示されているように、法施行規則第47条 (PCT規則38.2(b)) の規定により  
国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1ヶ月以内にこ  
の国際調査機関に意見を提出することができる。

6. 図面に関して

a. 要約書とともに公表される図は、  
第 8 図とする。  出願人が示したとおりである。

出願人は図を示さなかったので、国際調査機関が選択した。

本図は発明の特徴を一層よく表しているので、国際調査機関が選択した。

b.  要約とともに公表される図はない。

## 第IV欄 要約（第1ページの5の続き）

本発明は、文字または図形をベクトルデータを用いて表示デバイスに表示する文字図形表示方法において、前記ベクトルデータをスケーリングして量子化する際に、上記文字または図形を構成するストロークの位置を調整するため、前記ストロークが含む基準点の各々に対応するスケーリングされた基準点を生成するステップ（S301）と、前記スケーリングされた基準点間の距離の合計を求め、該合計を第1の方法で量子化するステップ（S302）と、前記スケーリングされた基準点間の距離の各々について第2の方法で量子化するステップ（S303）と、前記第2の方法で各々量子化された距離の合計が前記第1の方法で量子化された合計に等しくなるように、前記第2の方法で量子化された距離の少なくとも1つを調整するステップ（S304～S309）とを包含する。

## A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. Cl. 7 G 09G 5/24

## B. 調査を行った分野

・調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl. 7 G 09G 5/24

## 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年  
 日本国公開実用新案公報 1971-2004年  
 日本国登録実用新案公報 1994-2004年  
 日本国実用新案登録公報 1996-2004年

## 国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	J P 4-188190 A (株式会社日立製作所) 1992. 07. 06 第4頁左上欄第1行～第5頁左下欄第7行、第1図～第2図	1, 4-5, 8, 10-12
X	第5頁左下欄第8行～第16行、第7図	7
Y	第4頁左上欄第1行～第5頁左下欄第7行、第1図～第2図 (ファミリーなし)	2-3, 6, 9

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

## の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

03. 08. 2004

国際調査報告の発送日 17. 8. 2004

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員)

小川 浩史

2G

9114

電話番号 03-3581-1101 内線 3226

C(続き) 関連すると認められる文献		関連する 請求の範囲の番号
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	
X	JP 7-36434 A (株式会社日立製作所)	1, 4-5, 10-12
Y	1995. 02. 07	2-3, 6, 9
A	段落【0003】、【0006】～【0007】、図5 (ファミリーなし)	7-8
Y	JP 3-38691 A (株式会社日立製作所) 1991. 02. 19 第6頁左下欄第2行～第4行 (ファミリーなし)	2-3
Y	JP 3-92897 A (日本電気オフィスシステム株式会社) 1991. 04. 18 請求項1、第3頁左上欄第9行～右上欄第8行 (ファミリーなし)	2-3
Y	JP 4-93894 A (キヤノン株式会社) 1992. 03. 26 第11頁左上欄第4行～第12頁左下欄第7行、第12図、第1 6図 &EP 471482 A2 &US 5304988 A &US 5930408 A	6, 9
Y	JP 6-175638 A (富士通株式会社) 1994. 06. 24 段落【0069】 &JP 6-175639 A &US 5526476 A &CN 1090937 A &KR 124961 B &KR 209455 B	6